

昭和女家政 村井不二子 ○後藤好子

昭和女短大 安蔵裕子

目的 本報は、明治期における洋装導入の背景と、その特質について研究をすすめるため、基礎的データの収集としての実態調査から、昨年度(第八報)に引きつづいて、滋賀県愛知郡小林家所蔵の洋装資料について、その一部を報告するものである。

方法 第九報においては、背広型上衣等数着をとりあげ、形態、素材、各部の計測による構成パターンの検討、縫製技術、付属品等の特質について考察する。

結果 これまでの調査によれば、小林家所蔵の洋装資料の多くは、外国製であり、四代目吟右衛門が洋行当時(明治20年)購入したものと伝えられている。第六報の三揃いのスーツ等と同様、本資料もまた国産品ではないと推察される。縫製技法上の大きな特色としては、6着は、比較的簡易な単仕立てである点、他の1着(ベストと揃い)については、表裏同布の衿仕立てである点があげられる。背広型においても、高級注文服から、既製服的、量産的性格をもつものまで多様であり、それらは、紳士服の変遷および普及状況の一端を物語るものである。